

高等学校 第2学年 国語科 学習指導案

期 日 平成24年10月16日(火) 第3時限

場 所 熊本県立宇土高等学校 2年5組教室

指導者 教諭 鏡山 純史

1 単元名

「5単元 詩歌 永訣の朝」

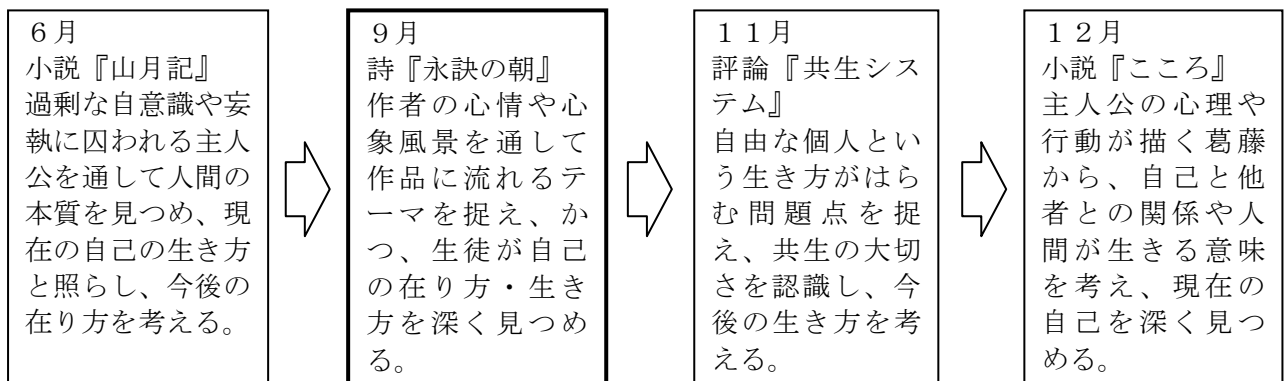
教材 精選現代文 P55～59 (筑摩書房)

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、社会とのつながりや他者とのかかわりが希薄となった現代の状況を受け、生徒に「ほんとうの生き方」「生きる意味」とは何かを問いかけ、自己と対峙し、自他の生命尊重や共生について深く考えさせるという意義を含んでいる。今回教材として取り上げる宮沢賢治「永訣の朝」は、作者の生前に発表された『心象スケッチ 春と修羅』中の作品であり、最愛の妹トシへの思いを綴った三連詩「松の針」「無声慟哭」の冒頭を飾る作品である。この詩は、前半で臨終間際のトシを悼む悲痛な思いが綴られるが、後半はトシの言葉により賢治の心に変化が生まれ、祈りの言葉で完結するという内面が描かれている。これは、童話『銀河鉄道の夜』『グスコーブドリの伝記』の世界とも重なり、かけがえのない命への畏敬や自己犠牲を描いたものと読むことができる。したがって、トシの言葉や「すべてのさいはひ」などの象徴的な言葉から詩のテーマを探ることは、自己と他者とのかかわりや生命尊重という価値観を導き、自己の在り方・生き方を見つめる契機をもたらすと考え、本単元を設定した。

(2) 系統観



(3) 生徒観 (本単元に関わる生徒の実態 男子28人、女子15人、計43人)

- 全体的に落ち着いている。主体的に発言する生徒は見られないものの、授業に対しては前向きに取り組む、発問や課題にも真剣に向きあう姿勢がうかがえる。
- 国語に抵抗を抱く生徒は少なく、文章を読むことに慣れてきた生徒も増えている。
- 話し合いについては全体的に消極的な雰囲気があるが、ワークシートを活用した授業においては自分なりの意見や考えをまとめ、記述しようという姿勢が見られる。したがって、個々のまとめた内容をグループ活動に反映させ、各々の考えや意見を深化させられると考える。
- 学習に関するアンケート (43人)

○自分は勉強すればもっとできると思うか。 思う—3人 少し思う—29人 あまり思わない—11人 思わない—0人 理由 (思わない: 努力していないから、勉強しても伸びないから)
○授業に積極的に取り組んでいると思うか。 思う—3人 少し思う—28人 あまり思わない—11人 思わない—1人 理由 (思う: 知識を身に付けたいから 思わない: 集中できていないから)
○自分の力でじっくり考えて問題を解くことが楽しいと思うか。 思う—4人 少し思う—18人 あまり思わない—18人 思わない—3人 理由 (思う: 解けたときに達成感があるから 思わない: 時間がかかるから、飽きるから)

○授業で考えたことが日常生活の中で役に立っていると思うか。 思う—4人　　少し思う—15人　　あまり思わない—19人　　思わない—5人 理由（思う：思考力がつくから　思わない：生活につながらないから、実際と異なるから）
○授業の中で自分自身をじっくり見つめ、考える機会があるか。 ある—2人　　まあまあある—11人　　あまりない—19人　　ない—11人 どんな時（人権学習、総合的な学習の時間、国語）

○「命」に関するアンケート（43人）

○これまでに身近な人が亡くなった経験や動物が死んだ経験があるか。 ある—36人　　ない—7人 誰が・何が・・・・・・・・曾祖父母、祖父母、友人、飼っていた犬・猫 どんな気持ちだったか・・悲しかった、つらかった、残念だった、寂しかった、 実感がなかった、何も感じなかった、死んだらどうなるのか考えた
○これまでに、何よりも命が大切だと思った経験はあるか。 ある—37人　　ない—6人 どんな時に・・・・・・・・身近な人が亡くなった時、家族が事故に遭った・病気になった時、 震災などの報道を見た時、戦争の話聞いた時
○今、自分の命や他人の命を大切にするためにどんなことをしているか。 あまり考えたことがない、特に何もしていない、家族で過ごす時間を大切にしている、 交通ルールを守っている、他人を思いやる、なるべく楽しく生きようと努めている、 生きるための居場所と生きがいを探し出し見つける、どんな小さな命でも見つめて感じたことを覚えておくようにしている

(4) 指導観

- 生徒の感性を大切に、読後感の素直な捉え方や気づきを活動に生かすために、ワークシートに自己の思いや考えを書かせ、自己の理解や変容を確認させる。
- 話し合いによる言語活動では、少人数のグループを構成し、主体的に取り組むことができる雰囲気を作る。そのうえで互いの意見や考えを交換して、さまざまな考えや視点に気づかせる。また、話し合いが活性化していないグループに対して、その要因を観察しながら支援する。
- 詩のテーマを自分自身の問題として考察し、さらには今後の在り方・生き方に反映させるために、命の尊さや他者とのかかわりに関する身近な話題を参照して考えさせる。

Bプロジェクト 学習評価と指導の改善の視点から
○道徳教育の視点として「道徳的価値の理解」「自分とのかかわり」「自己実現への意志」を設定し、それぞれの視点に沿って具体的な生徒の姿を想定し、生徒の反応を見取ることができるようにする。本時では、主に「自分とのかかわり」「自己実現への意志」を持って考えているかどうかを重視する。
○「自分とのかかわり」を持って考えているかを見取るために、ワークシートを活用して自分の意見や考えを整理し、その記述に基づいて互いの立場を明らかにできるようにグループによる言語活動を試みる。なお、グループにおける言語活動の場では、課題の主旨を正確に理解できているかを評価し、必要に応じて助言したり、新たな視点を与えたりなどの支援を行う。
○「自己実現への意志」を持って考えているかを見取るために、自他の生命尊重や利他的精神という道徳的価値に気づき、自己の在り方・生き方に照らして捉えられるように生徒の実体験に基づくコメントや新聞記事・コラムを活用する。

3 単元の目標と評価規準

単元の目標	言葉や表現に込められている作者の心情を読み取り、詩に描かれたテーマを考察することで現在の自己の在り方・生き方を考える機会とする。さらには詩の学習を通して自他の生命尊重や利他的精神という道徳的価値を自ら導き、今後の在り方・生き方に指針を与え、自己実現の意志を育むことを目標とする。
関心・意欲・態度	① 積極的に作者の心情を考えようとしている。 ② 自己の意見や考えを整理し、記述しようとしている。
読む能力	① 言葉や表現から作者の心情や詩のテーマを深く考えている。 ② 話合いの場で自己の意見や考えを表明し、他者との意見交換を通して理解を深めている。さらには現在の自己の在り方・生き方に繋げて考えている。
知識・理解	① 作者の生涯や作品を知り、教材の鑑賞とテーマ理解に繋げている。

4 指導・評価の計画（5時間取扱い 本時5／5）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
1	1	○作者について知る。 ○朗読CDを聴く。 ○音読する。 ○感想を書く。	・ 作者に関する知識を身に付けさせる。 ・ 鑑賞・音読により言葉や表現を味わわせる。 ・ 自己の意見や考えを整理し、記述させる。	知識・理解①（発言・発表） ・ 作者の生涯や創作活動を知り、教材の鑑賞とテーマ理解に繋げている。 関心・意欲・態度①②（観察） ・ 積極的に作者の心情を考え、たうえで自己の意見や考えを整理し、記述しようとしている。
2	2	○感想を発表する。 ○詩全体を音読する。 ○詩の中心と思われる言葉や表現を抜き出し、作者の精神を考える。 ○各々で詩のテーマを考え、グループで話し合う。 ○意見や考えを発表する。	・ 鑑賞により言葉や表現を味わわせる。 ・ 指示された課題を正確に理解させる。 ・ 作者に関する背景的知識を踏まえて根拠のある意見や考えを整理し、記述させる。 ・ 自己の意見や考えを表明するとともに、他者の立場を知り、互いの視点を深めさせる。	自分とのかかわり（観察・ワークシート） ・ 作者の心情を深く考えたうえで自分の意見や考えを整理し、その記述に基づいて自己の立場を表明している。さらには詩のテーマを自己の体験や日常に照らして考えている。 読む能力①②（記述の点検） ・ 話合いの場で自分の考えたテーマを発表し、他者との意見交換を通して理解を深めている。
3	3	○学習部分（前半部）を音読する。 ○詩の内容と作者の心情を捉える。	・ 音読により言葉や表現を味わわせる。 ・ 妹とし子の言葉により妹の死を悼む作者の心情が変化し、新たな思いが生まれていく様子を読み取らせる。	関心・意欲・態度①②（観察） ・ 積極的に作者の心情を考え、たうえで自己の意見や考えを整理し、記述しようとしている。 読む能力①（記述の点検） ・ 言葉や表現から作者の心情を深く考えている。
4	4	○学習部分（後半部）を音読する。 ○詩の内容と作者の心情を捉える。	・ 音読により言葉や表現を味わわせる。 ・ 作者が妹とし子の死を深く見つめることで自己の生き方を定め	関心・意欲・態度①②（観察） ・ 積極的に作者の心情を考え、たうえで自己の意見や考えを整理し、記述しようとし

			ていく様子とその決意を読み取らせる。そのうえで詩全体に通底しているテーマを再び考えさせる。	ている。 読む能力①（記述の点検） ・言葉や表現から作者の心情や詩のテーマを深く考えている。
5	5 (本時)	○作者の心情を総合して、詩に込められたテーマを捉える。 ○各々で詩の帯（キャッチコピー）をつくり、発表し合う。 ○詩のテーマを自己の日常に照らし、現在の在り方・生き方を見つめる。	・指示された課題を正確に理解させる。 ・学習過程で改めて気づいた点や理解できた点を整理し、記述させる。 ・自己の意見や考えを表明するとともに、他者の立場を知り、互いに折り合わせ、詩のテーマを導かせる。 ・課題を自分のこととして捉え、道徳的価値に繋げさせる。	自己実現への意志（観察・ワークシート） ・詩のテーマを考えることで自他の生命尊重や利他的精神という道徳的価値に気づき、自己の在り方・生き方に照らして捉えている。 読む能力①②（記述の点検） ・話合いの場で自己の意見や考えを表明し、他者との意見交換を通して理解を深めている。さらには現在の自己の在り方・生き方に繋げて考えている。

5 本時の学習

(1) 目標

○他者との対話を通して新たな視点を得ることで、テーマについてさらに深く考え、現在の自己の在り方・生き方を考える機会とする。 (読む能力①②)

(2) 評価規準

○「読む能力①②」話合いの場で自己の意見や考えを表明し、他者との意見交換を通して理解を深めている。さらには現在の自己の在り方・生き方に繋げて考えている。

(3) 道徳教育の視点

○詩のテーマを考えることで自他の生命尊重や利他的精神という道徳的価値を導き、自己の在り方・生き方に照らして考えている。 **【自己実現への意志】**

(4) 展開

	学習活動	主な発問・指示等	指導上の留意点及び評価	備考
導入 5分	1 前時の内容を振り返り、本時の課題を確認する。	○作者の心の変化を確認しよう。 ポイントを整理した資料を読む。	○ワークシートを振り返って、詩全体の内容を確認させる。 ○グループを作らせる。	ワークシート
展開 40分	2 音読する。 【一斉】 3 最初の授業で想定した詩のテーマを確認する。 4 この詩に流れているテーマについて再考する。 【個人】	○最終部を読んで作者の心情に思いを馳せよう。 ○最初の授業で考えた詩のテーマを思い出してみよう。 自己の考えの軌跡を確認する。 ○詩を物語文と想定し、本の帯（キャッチコピー）をつくろう。 帯（キャッチコピー）の具体例を見て、活動内容を確認する。	○とし子の言葉と賢治の思いを反芻させる。 ○全体の読み取りを終えた後、心情やテーマの捉え方に変化があったかを考えさせる。 ○コピーにはテーマに対する自己の思い（作者の思いや境遇と重なる点）を挿入させる。	本の帯（見本）

	「～が～する（になる）物語」という書き出しでつくる。 [課題については、予め考えておくよう指示している。] 5 グループで話し合い、互いの意見や考えを交換する。 【グループ→一斉】 (1) グループで自分の意見や考えを発表する。 (2) 互いに意見や考えを交換する。 (3) 全体にグループ内での意見や考えを発表する。 6 他のグループの発表を聴き、自分の捉え方と照応する。 【個人】 7 詩のテーマを日常に照らし、今の自分を見つめる。	○帯（キャッチコピー）をグループで発表し合おう。 ○他者が考えた帯（キャッチコピー）を聴き、ワークシートに記録しよう。 互いの考えを比較する。 ○各グループで帯（キャッチコピー）を一つに絞り、より良いものに仕上げよう。 (中心発問) 詩のテーマが読者に伝わるような帯（キャッチフレーズ）を再構成する。 ○グループで話し合った内容を整理して全体に発表しよう。 ○他のグループの発表を聴き、自己の捉え方をさらに深めよう。 ○詩のテーマと自分の体験や日常を重ねてみよう。 「自己の体験との重なり」、テーマに関連した新聞記事・コラムを読む。 作者の他作品を参照する。 ○詩で感じたことを自分の生き方にどのように結びつけていくか書こう。	○他者の意見や考えをワークシートに記録させる。 読む能力①②（記述の点検） ○話し合いの場で自己の意見や考えを表明し、他者との意見交換を通して理解を深めている。さらには現在の自己の在り方・生き方に繋げて考えている。 ○各グループの発表内容をワークシートに記録させ、自己の捉え方を広げ、深めさせる。 ○数人の生徒に発表させる。 【道徳教育の視点：自己実現への意志】（観察・ワークシート） ○詩のテーマを考えることで自他の生命尊重や利他的精神という道徳的価値を導き、自己の在り方・生き方に照らして考えている。	A 3 用紙（発表用）マジック 「自己の体験との重なり」新聞記事・コラム、他作品の資料
整理 5 分	8 本時の学習を整理する。	○自己評価シートで今回の授業を振り返ろう。		自己評価シート